

優良賞

私達の主張

加納小学校六年 佐藤 巧

僕は、コロナ禍で増加している「いじめ」の深刻さを主張します。

コロナウイルスの流行が始まったあたりから、コロナウイルスに感染して数か月経って学校や仕事に復帰した人や、学校や仕事を体調不良などで休んだ数日後に復帰した人などを差別する「コロナ差別」が起きました。それが原因で転職をよぎなくされるような出来事がたくさんありました。つまり、差別をすること、他人の人生の一部あるいはその人生全てを奪っていくことになりません。

差別が原因で死に追いやられることだってあるのです。あなたの身边にはないかもしれないかもしれませんが、世の中で苦しんでいる人がたくさんいます。自分が友達に伝える一言の重みを

理解し、責任を持ちましょう。

一つのささいな事から差別やいじめは起きます。例えば、人のミスで笑う、馬鹿にする、厳しい強い言葉をかける、仲間はずれにする、その人を避ける、など、自分達は悪気が無くても、受け止める側は悪気を感じ、心が傷つきます。その友達がもし、そのことを引きずっていたら、もう二度と話すことすらできなくなるかもしれません。相手の心の傷は、相手の家族まで届きます。自分の家族も傷つきます。そんなことがあつていいのでしょうか。この厳しい現状で、深い傷をつくることは、相手の心を奪い取っていることになります。相手の心を潰して、相手の上に立つのは絶対にやめましょう。もし、学校でいじめが起き、いじめられた人が学校に来なくなったら、先生、生徒全員が悲痛な思いをします。小さな言葉が大きな傷になるのです。それが原因で、最終的に死を選ぼうとしてしまうことだってあります。もし、そのようなことが起きたら、いじめた人の家族全員が加害者扱いになります。周りの人は、そのいじめた人を責めずに、

どうか気持ち前向きにして、優しくかわりましょう。

この状況下でいじめは、一つの大事な家族の命を奪うことだってあります。人の心を大切に、みんなで一丸となって乗り越えられるようにしましょう。